

第3回江別市子どもの読書活動推進計画策定懇話会 議事録

- 1 日 時 平成30年11月22日（木）午前10時00分～午前11時30分
- 2 場 所 江別市教育庁舎 大会議室
- 3 出席者 会 長 井上 大樹
副会長 加藤 広子
委 員 多田 初男
委 員 松山 和子
委 員 宮崎 善昭
委 員 寺田 さゆり
委 員 藤岡 章一
- 4 事務局 教育部次長 伊藤 忠信
情報図書館長 山本 則行
情報図書館主査 山田 容示
- 5 傍聴者 なし

発言者	会議録（要旨）
伊藤次長 （事務局）	<p>本日は、皆様、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>定刻となりましたので、ただいまより、第3回 江別市子どもの読書活動推進計画策定懇話会を開会いたします。</p> <p>本日の傍聴希望者はありません。</p> <p>懇話会の進行は、会長が行うこととなっておりますので、以降は、井上会長にお願いいたします。</p>
井上会長	<p>それでは、次第に従い進めさせていただきたいと思います。</p> <p>次第の2の議題「第3期江別市子どもの読書活動推進計画（案）に対する意見交換について」、事務局より説明をお願いします。</p>
山本館長 （事務局）	<p>議題についてご説明する前に、本日、配付しました資料の確認をいたします。本日、配付しました資料は、会議の次第、右上に資料1とあります「第3期江別市子どもの読書活動推進計画（案）」に対する市民意見募集結果と市の考え方、資料2 第3期江別市子どもの読書活動推進計画（案）、以上の3点でございます。</p> <p>お手元がない資料がございましたらお知らせいただきたいと思います。</p> <p>それでは、第3期江別市子どもの読書活動推進計画（案）に対する意見交換について、ご説明いたします。</p> <p>お配りしました資料1「第3期江別市子どもの読書活動推進計画（案）」に対する市民意見募集結果と市の考え方」をご覧ください。</p> <p>第3期江別市子どもの読書活動推進計画（案）に対する意見募集は、 1 意見募集の結果 の（1）意見募集期間にありますとおり、9月3日から10月3日までの期間に、市のホームページと広報9月号に掲載し、また、（2）計画（案）配置場所 に記載しました16か所に資料を配置して、実施したところ、3名の方から意見を提出いただきました。</p> <p>次に、「2 第3期江別市子どもの読書活動推進計画（案）に対する意見概要と市の考え方」についてですが、 いただいたご意見については、（1）にあります「考え方の区分」の「意見の反映状況」に記載のとおり、計画への反映状況を、AからEの5つに区分しております。</p> <p>それぞれの内容は、Aは「意見を受け入れて案を修正するもの」、Bは「案は修正しないが今後の進め方等において積極的に参考とするもの」、Cは「案と意見の趣旨が同様と考えられるもの」、Dは「これまでも取り組んできているもの」、Eは「案に取り入れなかったもの」としております。</p>

山本館長
(事務局)

次に、(2)「ご意見の概要と市の考え方」に、実際にいただいた意見とご意見に対する市の考え方を記載しております。

まず、No. 1のご意見は、「計画(案)によれば江別市子どもの読書活動推進計画に基づき、これまでにほとんどの目標を達成し、第3期計画でさらなる推進を設定しています。

この中で読書する子供の割合はスマホなどにおけるSNSなどの情報通信手段の多様化などで年々減少していくものと思われます。抜本的な解決策ではないかもしれませんが、可能であればモデル校やモデル地域などを設定し取り組み意欲の向上を図っていくというのも、一つの方策かと思料されます。」という内容です。

これに対する「市の考え方」としまして、いただいたご意見の中ほどにあります「読書する子供の割合は年々減少していくものと思われます」ということについては、市の考え方の最初の段落にありますように「計画(案)の第2章 子どもの読書活動の現状と課題の「2 子どもの読書環境の変化」に示すとおり、読書する子どもの割合については減少している可能性がある」と認識しています。」として、同じ認識であることを述べています。

また、ご意見にあります「可能であればモデル校やモデル地域などを設定し取り組み意欲の向上を図っていく」ということについては、「計画(案)では、学校図書館の読書環境整備をさらに進めるため、小中学校図書館と情報図書館が連携した読書活動に関する会議を開催すると記載しています。その会議では、学校図書館の利活用や整備の取組事例を紹介してまいります。」として、計画(案)の中で、モデル校ではないが、実際に学校図書館の利活用や整備に取り組んだ事例を、他の学校に紹介して、学校図書館の環境整備を進めていくこととしており、施策の進め方が同様と考えられるため、案は修正しませんが、「ご意見にありました、モデル校やモデル地域の設定については、今後、庁内の推進委員会で具体的な施策を検討する際に参考にしてまいります。」としまして、いただいたNo. 1のご意見は、「案は修正しないが、今後の進め方等において積極的に参考とするもの」として、取扱区分を「B」としております。

続いて、No. 2のご意見は、「私は塾で国語を教えています。読書嫌いの子供さんたちは、おそらく、字づらを読んでいて、全部理解しようとして途中でわからなくなり、挫折する傾向があります。読書というのは、意味がわからない部分はとばして読んだっていいし、詳細はわからないけれど、全体として、なんとなくわかる、が大事なのです。つまり、精読より多読です。また、親から「本を読みなさい!」といわれて読む本より、自発的に読むようになった本の内容というものは子供の記憶に刻まれます。まずは子供が興味をもつ本と出会うために、図書館などに行く機会を増やすことが親にとって大事なことであり私は思います。」という内容です。

これに対する「市の考え方」としましては、いただいたご意見は、「図書館などに行く機会を増やすことが親にとって大事なことであり」という

山本館長 (事務局)	<p>ご意見でありますので、「計画(案)の【推進方策1-1】「家庭における読書活動の推進」の中で、「家庭での読書活動を定着させるには、乳幼児期からの読書活動の重要性を伝えながら、保護者が子どもの読書について考える機会の提供が必要」としており、いただきましたご意見は趣旨が同様と考えています。</p> <p>ご意見にありました、子どもが本に出合う機会の必要性などの保護者への啓発については、「家庭における読書活動の推進」の取組の中で参考にしてまいります。」としました。</p> <p>いただいたNO. 2のご意見は、「案と意見の趣旨が同様と考えられるもの」として、取扱区分を「C」としております。</p> <p>続いて、No. 3のご意見は、「何かと忙しい最近の子どもたちですが、放課後パソコンやスマートフォンに費やす時間から「10分程度読書にあててみる」ということならば実現可能ではないでしょうか。</p> <p>こうすれば学校で10分、家庭で10分なので読書時間は合計20分となり、学校だけの読書の2倍の時間となります。</p> <p>毎日継続すれば素晴らしい効果と言っては上げさかもしませんが、子どもたちの成長により影響を与えうると思います。」という内容です。</p> <p>このご意見に対する「市の考え方」としましては、「ご意見にありました、子どもの読書する時間を増やすこと、については、計画(案)の基本目標1では、子どもの読書習慣を定着させ、自主的な読書活動を推進するためには、家庭、地域、学校等社会全体で読書活動を推進する取組を進めていく必要がある」としてあります。</p> <p>ご意見にありました、学校で10分と家庭で10分の継続的な読書を促す取組については、今後、庁内の推進委員会で、学校や家庭で読書活動を推進する具体策を検討する際に参考にしてまいります。」としました。</p> <p>いただいたNO. 3ご意見は、「案は修正しないが、今後の進め方等において積極的に参考とするもの」として、取扱区分を「B」としております。</p> <p>第3期江別市子どもの読書活動推進計画(案)に対する意見交換について、計画(案)に対する市民意見募集結果と市の考え方の説明は以上です。</p>
井上会長	<p>事務局から、第3期江別市子どもの読書活動推進計画(案)に対する意見交換について、計画(案)に対する市民意見募集結果と市の考え方の説明がありました。</p> <p>ご意見や確認したいことがあればご発言をお願いします。</p> <p>まず、No. 1の意見から順にお伺いします。</p> <p>No. 1の意見のところで、ご意見や確認することはございますか。</p>
多田委員	<p>NO. 1の意見にありました「モデル校やモデル地域などを設定」は、積極的に取り組んでいく、という認識で間違いはないでしょうか。それとも、検討するという事なのではないでしょうか。</p>

山本館長 (事務局)	<p>「市の考え方」の後段にありますように、ご意見の中の「モデル校やモデル地域などを設定」という具体的な取組については、庁内の推進会議で検討する機会がございますので、そちらの方で参考にさせていただきたいと思っております。</p>
多田委員	<p>検討してやる場合もあるし、そうでない場合もあるということですか。</p>
山本館長 (事務局)	<p>具体的な提案として、今後の参考にさせていただくということです。</p>
多田委員	<p>先進的な事例を参考にして、全市的に波及していくという有効な方法だと思います。小学校、中学校の各1校でもいいと思います。</p> <p>今、司書を派遣している学校から、参考になるようなものを示して、先生方やボランティアの方々が見て、学校の状況が良い方向に向かっていく実感をもてるように、なるべく前向きに検討していただければと思います。</p>
山本館長 (事務局)	<p>「モデル校やモデル地域などを設定」という具体的な内容をいただいているところですが、「市の考え方」の中段に、「学校図書館と情報図書館が連携した会議を開催する」と計画(案)に記載しております。</p> <p>この会議は実際に開催しているものですが、この会議には司書も加わって、これまでに環境整備を実施した実績や、学校での読書に関する取組を紹介しています。このように、事例を会議の中で紹介する取組はしています。</p> <p>今回の計画(案)にも記載しておりますので、内容としては同じような取組を行っているという認識です。</p>
井上会長	<p>モデル校などを設定して先進事例としていくということは、今まで無かった要素を取り入れる場合に用いる手法で、学校教育の場等で多く実施されています。</p> <p>江別市の現状を基にすると、既に様々な取り組みを行っているという状況で、それぞれをどのように発展させていくかという段階だと思います。</p> <p>また、地域ごとにそれぞれの独自の取り組みを行っていることを考えると、事務局からの説明のとおり、情報交換の中でいい取組をさらに追及していくという、そういったブラッシュアップの仕掛けがあれば十分だと思うので、この判断が妥当だと思います。</p> <p>他に、NO. 1についての意見はいかがでしょうか。</p> <p>特に無いようなので、次に進ませていただきます。</p> <p>続いて、No. 2の意見のところ、ご意見や確認することはございますか。</p> <p>読書を推進していく中での方法論を紹介されたという内容ですので、ひ</p>

井上会長	<p>とつの方法として参考にさせていただきます。 無いようなので、次に進みます。</p> <p>No. 3の意見のところで、ご意見や確認することはございますか。 こちら、NO. 2と同様にひとつの方法をご提示いただいたということになると思います。 このことを取り入れていくかについては、計画を策定した後の具体的な推進方法を考える中で、各学校や地域で検討されることかと思えます。現場ごとに取り組みやすい方法を選んでいくのかと思えます。 皆さんいかがでしょうか。</p>
多田委員	<p>最近、家での読書を推進する「家読（うちどく）」というものが強調されていて、その大切さというものが耳に入ってくるようになりました。 ある調査で、小学生、中学生、高校生の間で、「親から読み聞かせをしてもらえなかった」という回答が全体の1割だったという結果を見ました。幼い頃、小学校なりで読み聞かせをしてもらえなかったお子さんが、不読率に繋がっているという分析もされているようです。 学校や幼稚園の活動の中で、読書をさせていくことは重要なのですが、NO. 3の意見にもありますように家で小さい時から本に親しむという活動を、どういう風に後押ししていくかということがすごく大事だと思います。 学校から家庭にアプローチするという場合もありますし、行政や図書館から家庭にアプローチするという場合もあると思いますが、家庭に対して家読を促す方策があるか、お聞きしたいと思えます。</p>
山本館長 (事務局)	<p>学校など教育機関以外で、家庭での読書を推進していく方策はどのようなものを想定しているかということですが、家庭での読書に繋がることを想定して、図書館や学校、保健センターでの「おはなし会」を実施しています。 これは、幼い頃から本に親しむ機会を設けて、読書の重要性を伝えていくことで、家庭での読書の推進に関する方策として進めています。 多田委員から、読み聞かせをしてもらった事がない子ども達のお話をいただきましたので、「おはなし会」を実施していることの周知をもっとしていくことが必要なのかなと思えます。</p>
多田委員	<p>宮崎委員に伺いたいのですが、幼稚園ではどのような活動を行っているのでしょうか。</p>
宮崎委員	<p>私立の幼稚園ごとにそれぞれ対応が違いますが、私共の幼稚園では、年に数回、保護者による読みきかせの機会を設けています。また、クラスで子どもたちに絵本を読みきかせる機会があります。 幼稚園も保育園もほとんどで読みきかせの活動は実施していると思</p>

宮崎委員	<p>ます。それが、小学校に入った段階でそういった機会が減るのではないかと推測しています。</p> <p>そして、家庭で両親が子どもに本を読ませている姿を見せているかという、なかなかないだろうと思います。</p> <p>その点について、行政が「本を読んでいる姿を子どもに見せなさい」ということを制度化することはできないので、啓発することしか方法はないと思います。</p> <p>いつの時代も、子どもは親を見て育つということがあると思います。親が子供に本を読む姿をみせているか、自分が子どもの頃読んで面白かった本を子どもに本を買い与えることがあるか、今、そういったことがないのではないかと感じています。</p> <p>そういったこともあるので、「家庭での読書活動の推進」というのは難しいと感じます。学校教育の中で、読書は重要だという価値観を身に着けさせることが重要だと思います。</p> <p>読書する機会を与えていくということが行政の考え方だと思います。ただ、その方法は外的な方法なので、内的是方法としては、教育の中で育てることしかできないと思います。</p> <p>私共の幼稚園では認知教育をしていません。社会性だとか感性だとかを育むことに力を入れるよう、非認知教育に重きを置いています。その中で、子どもが読書することに直接結びつくような活動は、まだまだ出来ていないと思っています。</p>
松山委員	<p>江別市内のほぼ全ての小学校で、読み聞かせを実施しています。ボランティアのお母さんたちが、朝読書の時間をもらったり、年に1、2度大きなイベントをさせてもらったりという活動の中で、絵本を読み聞かせするという活動はかなり浸透してきているという実感があります。</p> <p>ただ、雑誌ではない厚い本が家にあって、いつもお父さんやお母さんがそれを開いている状況があるかとなると、それは難しいと感じています。</p> <p>情報図書館では、毎月「情報図書館だより」を作成していますが、その中で「『家庭で親子読書会』をやってみませんか?」というようなフレーズを入れてもらおうと、少しでも啓蒙になると思います。お父さんやお母さんは、自身が子どもの時に読んで面白かった絵本や児童書を読んだ感想を親子で語り合うような時間を持てるような家庭環境があって欲しいと思います。</p> <p>学校での教育も大切ですが、ここ数十年のうちに家庭での読書環境が減退したと感じているので、家庭の読書への関心を高める取組に力を入れていただきたいと思っています。</p>
加藤副会長	<p>小学校での読み聞かせは定着している印象です。毎週、お母さま方が必ず来て実施しています。特別にイベントというような感覚ではなく、習慣づいている状況です。</p> <p>子ども達は、学校にいと本が好きです。授業時間の合間には、よく本</p>

加藤副会長	<p>を読んでいる姿を目にします。というのも、学校にはゲームもスマホもないので、空いている時間は読書しようということだと思います。それは、強制されているのではなく、読めば楽しいという感覚があるようですし、字が嫌いな子は、絵を見て楽しむということから自ら進んでしていることは確かです。</p> <p>しかし、家に帰ると本よりもっと楽しい、スマホやゲームがあるというところが、家での読書量が減っているということの原因だと思います。</p> <p>この因果関係は、読書だけでなく、学習や体づくり、すべてに悪影響を与えていることは間違いないと思います。</p> <p>そういったことから、この読書だけではなく子どもの生活に関わった取組が必要なのかなと思っています。</p> <p>お話の中であったように、やはり親が本を好きでなければ、子どもも本を好きになれないと思うので、大人も含めてみんなで読書をしましょうというアプローチが必要だと思います。</p> <p>読書週間には、子どもたちが書評を書いて本の紹介をしています。学校からの働きかけで、親からの子ども達に向けた本の紹介を書いてもらって、校内に掲示するという事も実施しています。</p>
井上会長	<p>計画（案）の中では、12ページ、13ページで書かれている内容が、今お話していたところかと思いますが、具体的にはここに書ききれないくらいの取組を既にされているようなので、学校内外やその枠を越えて情報交換をしていくということが重要だと思いました。</p> <p>意見の趣旨をくみ取るに、そういった情報交換の機会を増やしていくということが重要だと思いました。また、親である大人が活字に親しむということが、共通の課題として浮かび上がってきたと思います。</p>
宮崎委員	<p>計画（案）では小中学生の読書率は高いという事でしたが、高校生になると読書率が減っているようでした。小中学校の時にこの先の人生、生活の中で読書がいかに価値のある事なのかということ、どのように認識させるかということだと思います。そういった価値観があると、大きな動機付けになると思います。</p>
多田委員	<p>今、本を読むというアナログの読書と、スマホなどをおして読むデジタルの読書がある中で、せめぎ合いが始まっています。小さい頃には、デジタルの欲求というものがないようですが、小学校にあがると友達との繋がりがどうしてもデジタルの領域になってくるということで、本の読書が非常に苦戦する状況にあります。</p> <p>読書の価値とか、意義を継続的に訴えかけが大事だと感じています。</p>
井上会長	<p>今、読書媒体自体がスマホなどのポータルの世界に入ってきていて、私もよく利用しています。</p> <p>読書には、文化という側面と、教育、学習という側面がありますが、中</p>

井上会長	<p>高生に読書を定着させることを考えたときに、直近の課題として、受験などを見据えて勉強、学習でその必要性があるかということになります。</p> <p>私は大学の教員を始めて7年になりますが、学生たちにはそういった経験、学習をして欲しいという思いがあります。高校卒業するまでには、このような本は読んでいて欲しいというものはあります。</p> <p>今後、大学入試の設問もだいぶ変わって、ペーパーテストでも記述、論述など、色々な要素を見るような内容で実施して審査されるということです。</p> <p>そういうところで、読書の成果などを項目に取り入れていくと、高校の学習の中で読書をさせるように変わっていくと予想されます。</p> <p>そういったことを今回の計画に結び付けていくと、不読率の問題には二つ要因がありまして、一つは、貧困によって物、環境がないことです。そういった家庭の場合は勉強机もない、食卓で勉強という環境でもないという状況によるものです。そういったことに対しては、無料塾を例として、外で勉強できる環境を作ってあげるしかないというのがあります。</p> <p>もう一つは、本はあるけれども、大人が読書をしないので、子どもに影響しない、宝の持ち腐れになっている状況です。そういうケースは、ご指摘のとおり意外と多いです。そういったケースは、学校では本を読む機会があるとは思いますが、それが身についていくかという点で言うと、読書好きにならないと定着しないというのが、率直なところです。</p> <p>このように物はあるという状況であれば、親に対する啓発が効果的ということですが、ただ、難しいのは、そういうケースの場合多くは共働きであったり、子どもに時間をかけられなかったりという背景があるものですから、そういった中で、家庭での10分の読書という取り組みはひとつのヒントになるのかなと思います。このように子どもになかなか時間をかけられない状況にも対応できる推進方法を、それぞれの立場から提案していただく方法もあります。</p> <p>読書の習慣がない方にどう届けるかという際には、悲しいかなインターネットなどのそういった電子媒体が有効ということになります。そういったツールを選択していくということも、一つの手法かなと思います。</p> <p>こちら側から相手の方に入って仕掛けていかなないとなかなか進みません。</p> <p>NO. 1からNO. 3について、まとめて確認をしたいところですが、ご意見等ありましたらまとめてお願いいたします。</p>
藤岡委員	<p>テレビなどで紹介されているのですが、砂川市に「いわた書店」というお店があるのをご存じでしょうか。</p> <p>店主の岩田さんは、子どもさんと少し話をしただけで、この子がどんな本を求めているのかということがわかるそうです。楽しい、面白い本であれば興味を示す様子がわかるそうです。興味を掻き立てられる本に出合うことで、本が好きになると思います。その噂を聞いて全国から注文がきているそうです。</p>

藤岡委員	面白い本を読めば読書が好きになる、面白くない本を読めば読書が嫌いになるということは当然だと思います。難しいとは思いますが、その調整をうまくできれば読書好きが増えてくれると思います。
寺田委員	そちらは、子ども向け本の専門の書店なのでしょうか。
藤岡委員	大人にも対応してくれます。 依頼者が職を失っているのであれば、岩田さんが色々と聞いてく中で、どのような本を紹介すればいいか考えて、例えば元気が出る本などを選んで紹介してくれるらしいです。
多田委員	<p>学校教育を進める中で、選書というのは重要です。予算に合わせて担当の先生が選ぶと思うのですが、子どもの希望と要望を丁寧にくみ取って購入する図書へ反映させるということが重要です。</p> <p>計画（案）の中では、司書が支援して学校の読書環境の整備をするということなのですが、ピンポイント支援でもたくさん対応いただいて、是非選書の段階から子どもの意見を反映できるよう、お力をお貸しいただければと思います。</p> <p>「さんねんな生き物シリーズ」というのがありますが、学校の図書館にあるものは手垢がついていて、かなり読まれている印象です。子供たちが興味を持っているものに敏感に反応していただいて、蔵書に反映していただければと思います。</p>
井上会長	一通り意見を伺ったと思いますが、事務局から何かございますか。
山本館長 (事務局)	<p>学校図書館の選書に関しては、司書の活動の中でその対応には引き続き応えて参りたいと思います。</p> <p>各学校には、計画（案）にも取組として想定しておりますピンポイント支援などを利用して、選書などの要請をして頂きたいと思います。</p>
井上会長	<p>有難うございます。</p> <p>他になければ、「計画（案）に対する市民意見募集結果と市の考え方」についての意見交換は終了とします。</p> <p>最後にこれだけはということがございましたらご発言願います。</p>
多田委員	<p>学校司書の配置について、近年注目が集まっていて、努力義務ではありますが、法制化も進んでいるところです。</p> <p>直近でみた全校の学校図書館の調査報告では、平成30年4月時点で小学校における学校司書の配置に関しては、78.9%まで上昇しているとのことでした。中学校では82.2%、高校では、82.2%。前年と比較すると、小学校で6.7%、中学校で10.4%、高校では6.1%増えています。</p>

多田委員	<p>温かみや熱気のある学校図書館を作るには、司書の配置というのは欠かせないものだと思います。学校図書館に司書がいて初めて、学校所管の担当の先生との人間関係や子どもとの関係が築かれて、効果的な学校図書館になるとと思います。</p> <p>将来的にそういった方向に向かって行くようお願いしたいと思いません。</p> <p>「ユベオツの風」で、江別の学校司書の3名のコメントがありまして、その中でも学校からの要望はすごくあるのに対して、そこに応えきれていないという思いを率直におっしゃっていました。気持ちは私と同じだと思います。ぜひ、実現するように頑張ってくださいと思います。</p>
井上会長	<p>この後の計画（案）の最終確認ということで触れるところになりますので、そこで改めて説明いただければと思います。</p> <p>この他、意見交換のところであれば次に進めていきたいと思いたいますがよろしいでしょうか。</p> <p>ただいま、協議いたしました3件の市民意見の中から計画（案）を修正するような内容はございませんでしたので、この内容を教育委員会で審議いただくことになるのですが、本日、懇話会での協議が最後となるので、この計画（案）の内容でよろしいか最終確認に移りたいと思いたいます。</p> <p>今の内容も含めて、前回の懇話会で出た意見に対する回答を事務局からご説明願います。</p>
山本館長 (事務局)	<p>市民意見募集の結果、計画（案）の修正はありませんので、この内容を教育委員会で審議していただくこととなります。最終的に、この計画（案）について、ご意見がございましたら、お伺いしたいのですが、その前に、前回の懇話会の中で、いただいたご意見の対応結果についてご説明いたします。</p> <p>はじめに、ご意見をいただいて、計画（案）の記述を変えたところが2か所あります。</p> <p>一つは、12ページの【推進方策1-1】の【推進に向けた取組】の上から三つ目の○印の取組の後半に、「情報図書館の利用案内等に関する情報提供」という文言を加えております。</p> <p>もう一つは、13ページの【推進方策1-3】《推進の方向性》のところの2段落目と3段落目が、一つの文で書かれていたところを、文章を分けて書いております。</p> <p>また、ご意見をいただいたのですが、記述はそのままのところは2か所あります。</p> <p>一つは、4ページの下から9行目の「また、2017年から、国の新しい「学校図書館図書整備等5か年計画」がスタートし、～学校司書の配置が新たに計画の中に盛り込まれた」のところの記述については、再度確認をしまして、「学校図書館担当職員を配置するための経費として、地方交付税措置が講じられたのはH24年度から（150億円）ですが、司書の配</p>

山本館長 (事務局)	<p>置が盛り込まれたのは、2017（H29）年からの「学校図書館図書整備等5か年計画」でありましたので、そのままの記述としております。</p> <p>それから、18ページの、計画の指標のところの、一番上の指標の「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり10分以上読書する子どもの割合」の質問項目について、子どもたちは、「授業時間以外」のことを、「授業時間以外で、学校にいる間」のことを含めて答えていると思われるが、読んだ方は家での読書と理解するので、この指標を見た時に、学校にいる間の授業時間以外での読書時間が含まれていることがわかるようにならないか、ということでしたが、回答した児童生徒が質問項目をどう判断したのかはわからないため、説明が難しく、そのままの記述としております。</p> <p>また、前回の懇話会で、情報図書館に登録されている利用者は、市民に対してどれくらいの割合か、とのご質問がありましたが、利用者の登録数は、毎年、統計で出しているのですが、その数には、市内に住所を有する方のほかに、市内に通学、通勤している、市外の方も含まれており、市内に住所を有する方だけの数は出しておりませんので、お知らせできません。申し訳ありません。</p> <p>ちなみに、利用者登録数は、平成30年3月31日現在で、76,148人となっております。</p> <p>いただいたご意見への対応結果は以上で、これらを踏まえた内容を計画（案）として、意見募集を行っております。</p> <p>最終的に、この計画（案）についてご意見がございましたらお伺いしたいと思います。</p>
井上会長	<p>事務局から前回の懇話会で出た質問への回答とここで第3期江別市子どもの読書活動推進計画（案）の内容について最終確認ということになります。ご意見や改めて確認したいことがございました、よろしく願いいたします。</p> <p>今、事務局から説明いただいたところ以外でも構いません。</p>
松山委員	<p>多田委員がおっしゃたように、お母さま方から司書が学校図書館に入る前と後では、学校図書館の雰囲気は全然違うと随分と伺います。</p> <p>学校に司書がいて学校図書館が開いていれば、不登校のお子さんの居場所になるのではないかと思います。学校図書館の働きとして、不登校からの次の段階へのステップになれば、子どもを救える場所になると思います。その場所にいれば、自分の世界を持てるわけですから、そう意味でも行政の方で学校司書を全校に配置していただければと思います。</p>
井上会長	<p>この点について、事務局からご回答願います。</p>
山本館長 (事務局)	<p>今お話がありましたように、司書がいるといないでは、学校図書館の様子が違うということは多く耳にしているところです。</p> <p>司書の配置は、こういう計画では明確にはできないのですが、必要性は</p>

山本館長 (事務局)	認識しているところです。将来的なことは申し上げられないのですが、今後内容を含めて検討いたします。
多田委員	<p>第2期計画では、「年に1回は司書が学校図書館に対応できる人員体制を確保する」という表現が書かれていました。なるべく早く実現していただければと思います。</p> <p>また、「居場所づくり」のお話が出ましたが、国の第4次の閣議決定された内容についても、図書館が居場所になることに触れていますので、その点も現実的にそういう状況になってきたという感想です。</p>
井上会長	<p>19ページの指標では、学校司書の対応回数778回の現状を増やすということを目指すということですが、司書の人員の増加について、強い要望がありますので、今後具体的に進めていくにあたって、そのあたりを現場とも協議する場を設定していただきたいと思います。市民の立場としても別の働きかけが必要なのではないかと聞いておりました。</p> <p>あとは、現在、自治体の財政が厳しいをいう状況の中で、地方交付税交付金に限らない財源というところでは、江別の子どもの読書環境を活性化するための基金ですとか、ふるさと納税という形で教育に力を入れますという名目のもと宣伝してお金を集めるという方法もあります。</p> <p>地方自治体もお金を集めながら進めていかなければならないという実態があるのかと思いますが、市民活動と連携して行政サービスの充実につながっている例もあります。そういった知恵を出し合っていくという考えもあるのかと思います。</p> <p>あと、資格のある方が最良なのだと思いますが、居場所として図書館を開けておくということが重要なのであれば、市民ボランティアの活用というのも方法としてあると思います。</p> <p>ただ、こういった取組を進めていくには、学校側の負担が増えるということが常に付きまといますので、場合によっては負担に配慮して、まかせられるような運営のリーダーシップというか、司書に指導していくという形でいくと、限られた資源の中で充実した指導をできることになると思います。</p> <p>計画の推進に関しては、庁内での推進会議での協議にかかるということですがけれども、読書を推進している方々の力を活用して、具体的にこうできるといって方向になっていくのかなと思います。</p> <p>ご検討いただければと思います。</p> <p>その他に確認する事項はございますか。</p> <p>特に無いようなので、計画(案)に関する議論を終了しまして、次の段階に進んで参りたいと思います。</p> <p>今後のこの計画の進捗につきまして、事務局から説明願います。</p> <p>本日、ご意見等をいただきました「計画(案)に対する市民意見募集結</p>

山本館長 (事務局)	<p>果と市の考え方」は、12月の定例教育委員会への報告後、市のホームページに掲載する予定です。</p> <p>計画(案)は、現時点での内容のものをお配りしていますが、これに資料として、策定懇話会の委員名簿、計画の策定経過等を加える予定です。</p> <p>また、計画(案)については、この後、12月及び1月の定例教育委員会での審議を経て、決定し、2月の市議会の所管委員会に報告させていただく予定であります。</p> <p>以上でございます。</p>
井上会長	<p>ただいまの事務局からの説明について、質問等がございましたらご発言願います。</p>
寺田委員	<p>いままでこのように市民意見を募られたことはありますか。</p>
山本館長 (事務局)	<p>今回、第3期読書計画について広く意見募集をしましたが、前回の第2期の計画を策定する際にも、市民意見を募集しております。</p> <p>読書計画以外の他の計画も、市内の他の部署で策定することになりますが、そういった場合では必ず市民意見の募集を行っております。</p>
寺田委員	<p>今回、提出された意見が少ないように思いますが、他にはもっと意見が提出されていないものなののでしょうか。</p>
山本館長 (事務局)	<p>全て把握しているわけではありませんが、今回、読書計画に対しては3件ありました。同時期に募集した他の計画では1件の提出というものもありました。内容に応じて、件数は違ってくるかと思えます。</p>
寺田委員	<p>数が多い場合も、計画への反映を検討しているのでしょうか。</p>
山本館長 (事務局)	<p>他の計画でも、資料1でお配りしているようなものを作成しております。提出意見が1件だからといって、検討しないということではなく、意見提出があったものに関しては、必ずこういった形で市の考え方を示しています。</p>
井上会長	<p>ただいま、事務局から説明があった事項について、質問があればご発言願います。</p> <p>無ければ、今後この計画(案)については、教育委員会等の審議を経て進めていくということになります。</p> <p>議題に関する協議は以上になりますが、その他に委員の皆様の中に議題をお持ちの方はいらっしゃいますか。</p> <p>無いようなので、事務局からございますか。</p> <p>委員の皆様は3月31日まででございますが、事務局が予定して</p>

<p>伊藤次長 (事務局)</p>	<p>おります懇話会の開催は、先ほど計画（案）が確定したことにより、本日が最後になります。</p> <p>6月に皆様を懇話会委員に委嘱させていただき、計画策定のため、3回にわたりご審議いただきました。皆様におかれましては、お忙しい中、ご出席いただき、貴重なご意見をいただきましたことにお礼申し上げます。</p> <p>皆様からは、色々と貴重な意見をいただきました。家庭での読書普及に関する意見、学校図書館への司書の配置に関する意見、それらいただいた意見を踏まえて、今後検討して参りたいと考えております。</p> <p>今回策定する「第3期江別市子どもの読書活動推進計画」は、2019年から2023年までの5年間が計画期間となっております。皆様にご尽力いただき策定いたしました、本計画の推進を今後も見守っていただけると幸いです。</p> <p>改めまして、このたびの計画策定にあたりご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>事務局から、以上でございます。</p> <p>最後に、進行等でご尽力いただきました会長からご挨拶をお願いします。</p>
<p>井上会長</p>	<p>短い時間ではありましたが、充実した議論が出来たのではないかと思います。加藤副会長はじめ委員の皆様には、議事進行にご協力いただきまして、大変ありがとうございました。お礼を申し上げます。</p> <p>私は、江別市が職場ということでお世話になっているということが多いのですが、今回委員をさせていただきまして、子どもの読書推進ということに関しては、子どものどの年代に対しても、いろいろな働きかけがあるということをおもいました。</p> <p>それが、委員の皆様から熱心にご意見をいただいて、議論が活性化したのではないかな、というように思います。</p> <p>一方で、幼稚園、保育園で取り組んでいること、学校で取り組んでいること、さらには社会教育ということで情報図書館での取組、市民の側から取り組んでいることというのが、もう少し情報交換をして共有されていくと、もっと効果的に推進できるだろうというところが、江別市の読書活動というのが地域文化レベルで定着するのだと思います。そういう事が、子どもから大人まで読書の文化が根付く取組に繋がっていくのかな、と感じて、同時にそういったことが課題でもあると感じました。</p> <p>今回の懇話会のように枠を越えた方々が参集する機会というのも、今後推進する中で機会を作っていただいて、推進していく皆さんが団結して、読書をしようというような雰囲気を作ることがいいなと思って聞いていました。</p> <p>私自身、教育機関の一員で、江別市に対してなにかしら貢献をしたいと考えておりますので、なにか協力できることがあれば色々な形で、協力させていただければと思います。また、学生も活用していただいて、江別の読書環境の推進に貢献させていただければと思います。</p>

井上会長	この度は、大変お世話になりました。 ありがとうございました。
伊藤次長 (事務局)	以上をもちまして、第3回江別市子どもの読書活動計画策定懇話会を終了いたします。 (11時30分 閉会)